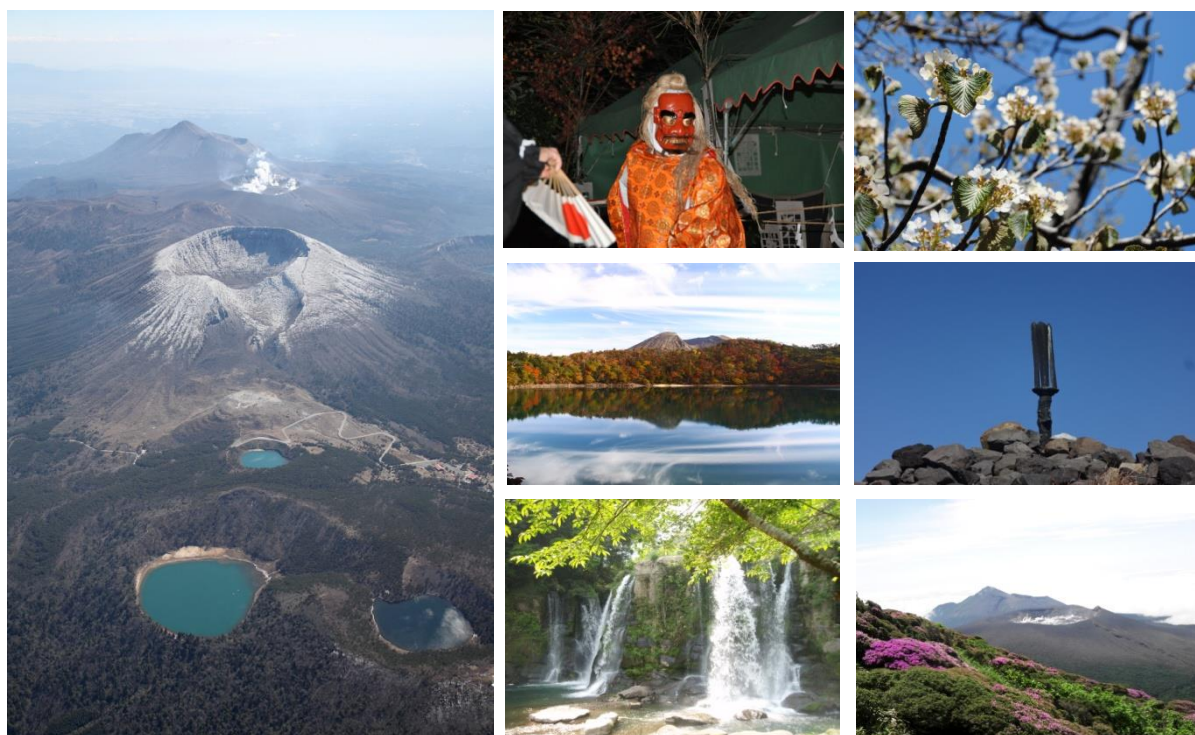

第3回 JGN全国研修会 報告書



平成25年11月21日(木) / 22日(金)



Kirishima Geopark
霧島ジオパーク

目 次

内 容	頁
・研修会の概要	1
・研修会スケジュール	2
研修会1日目	
・基調講演① 東川 隆太郎 氏	3
・基調講演② 福島 大輔 氏	6
開催地あいさつ	8
・全体協議① 各地域事例発表	
発表① 霧島ジオパーク 池田 圭介 氏	9
発表② 島原半島ジオパーク 大野 希一 氏	10
発表③ 秩父ジオパーク 宮城 敏 氏	13
・全体協議② アンケート質疑・回答	15
・グループ協議	16
・各グループまとめ	18
研修会2日目	
スケジュール	21
えびのエコミュージアムセンター	22
池めぐりコース	23
バス山麓コース	24
参加者一覧	25



研修会の概要



1 主催 NPO法人 日本ジオパークネットワーク

霧島ジオパーク推進連絡協議会

2 趣旨

日本ジオパークネットワークの主催する全国研修会で、日本ジオパーク全体のレベルアップと加盟団体の交流によるジオパークの普及啓発及び事例の共有化を目的とする。

3 日程 平成25年11月21日(木)～22日(金)

4 参加者 参加者 90名(別添名簿参照)

【JGN会員・準会員・協賛会員及会員・霧島ジオパーク関係者】

5 開催場所 環霧島地域

1日目 霧島市役所内複合施設会議室

2日目 霧島ジオパーク地域



研修会スケジュール



研修会1日目 11月21日(木)

- 9:00 開会セレモニー
主催者あいさつ
開催地あいさつ
- 9:15 基調講演①
休憩【10:15~10:30】
- 10:30 基調講演②
昼食【11:30~13:00】
- 13:00 全体協議
休憩【14:45~15:00】
- 15:00 グループ協議
- 17:00 終了
- 18:00 懇親会（市役所8F レストラン 野のいぶき）

研修会2日目 11月22日(金)

- 8:00 霧島市役所出発（庁舎南側）
- 9:00 えびのエコミュージアムセンター到着（えびの高原）
- 10:00 池めぐりコース・バス山麓コース出発
- 14:30 各コース終了、鹿児島空港、国分駅経由
- 16:05 霧島市役所到着

研修会1日目 11月21日(木)



9:00 開会セレモニー

- ・主催者あいさつ JGN事務局長 斎藤 清一
- ・開催地あいさつ 霧島ジオパーク推進連絡協議会 事務局長 萬徳 茂樹



9:15 基調講演①



演 題 「みんなで楽しいジオガイド」

講 師 NPO法人まちづくりフォーラム・かごしま探検の会

代表理事 東川 隆太郎 氏

■講師プロフィール

1972年9月3日、鹿児島市生まれ。鹿児島大学理学部地学科を卒業。

2001年NPO法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会の設立に関わり、現在代表理事。地域資源に関する新たな位置付けや価値付けに関心を持ち、まちづくりに活用していく活動を展開。

また、県内及び九州各地での観光ボランティアガイドの育成・研修に従事するなど、自他ともに認めるまち歩きのプロ。鹿児島県内の歴史を機軸とした、近代化産業遺産・まち歩き・温泉・地域資源の活用などをテーマに、講演活動やまちづくりコーディネートを行いながら、鹿児島、そして九州の魅力を観光・教育・まちづくりに展開させる活動に従事している。

○現職 2007年～ 特定非営利活動法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会代表理事

＝講演の内容＝

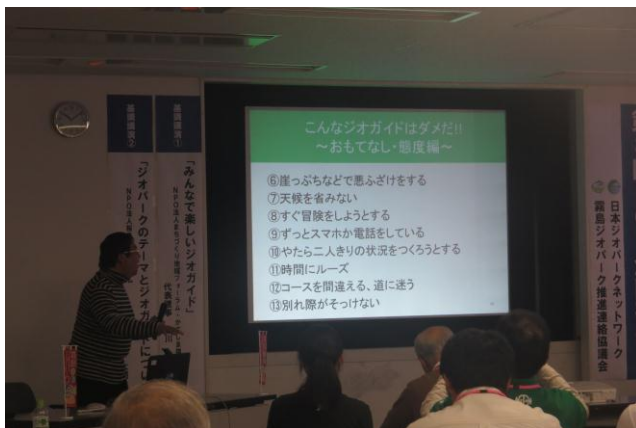
■集客につながるツーリズムってなんだろう。

- ・ ① パフォーマンスの充実
(ガイドや仕掛け)
- ②テーマは流行をとらえる
(記念日・季節・旬・話題など)
- ③「食」「憩」の演出は重要
- ④無理のない行程(安心・安全)
- ⑤納得のできる料金設定(お互いに)



■これからのツーリズム・まち歩きで大切なこと

- ①アカデミック(学術検証・素材磨き)
- ②エコノミー (資金調達・持続可能な体力づくり)
- ③パフォーマンス(情報発信・人材育成)



■たのしいジオツーリズムってなんだろう

- ・「無理」がない ・「おどろき」や「発見」がある ・「無駄」がない
- ・「トイレ」や「食べ物」がある
- ・「リスク」がない
- ・「おみやげ」や「余韻」がある

■こんなジオガイドはダメだ!!～おもてなし・態度編～

- ・ 対面から無愛想・上から目線または怒っている ・ 注意事項がやたらに多い、細かいすぎ ・ 挙動不審・または腰が低すぎる ・ 寝不足・空腹・二日酔い
- ・ 参加者が疲れていることとたしなめる(オレについてこいの) ・ 崖っぷちなどで悪ふざけをする ・ 天候を省みない ・ すぐ冒険をしようとする ・ ずっとスマホか電話をしている ・ やたら二人きりの状況をつくろうとする ・ 時間にルーズ ・ コースを間違える、道に迷う ・ 別れ際がそっけない

■こんなジオガイドはダメだ!! ～会話・知識編～

- ・ほぼ資料の棒読み
- ・ガイドなのに無口・説明はジェスチャー
- ・やたら話が長い
- ・やたら話が短い
- ・地質用語を並び立てて何がなんだか
わかんない
- ・同じ話を何度もする ・声が小さい
- ・地質以外の話が一切ない



- ・根拠のない大噴火や大地震の予言 ・自分のギャグに自分で笑う
- ・なにかをきっかけに家族自慢が始まる

■こんなジオガイドはダメだ!! ～ルックス編～

- ・ジオガイドなのにかなりの軽装(スリッパ・下駄ばき・上半身裸) ・過剰なくらいの重装備(防具・防弾チョッキ・アメフト風) ・なぜかコスプレ(アニメキャラ・メイド服・チャイナ服)
- ・筋肉を見せつけるような服装 ・やたら自分の写真を撮らせようとする

■ここで差がつくジオガイド

- ①ガイドはとりあえずその中で一番目立ちましょう
- ②身につけているものや持ち物で「地域」を表現
- ③応用がきくようなジオの話
- ④お客さんの反応をみて、説明の強弱をつける
- ⑤写真の撮り方も少し勉強
- ⑥雨の日の対応はしっかりと
- ⑦観光情報に詳しいと喜ばれる
- ⑧万一困難な状況でこそ冷静な対応

10:30 基調講演②

演題 「ジオパークのテーマとジオガイドについて」

講師 NPO法人桜島ミュージアム



理事長 福島 大輔 氏

■講師プロフィール

1973年鹿児島生まれ。専門は火山地質学（理学博士）。京都大学・桜島火山観測所の研究員を経て、2005年にNPO法人桜島ミュージアムを設立。現在、桜島ミュージアムの理事長と鹿児島大学の非常勤講師を兼務。自然・歴史・文化など様々な視点から桜島を総合的に解説することのできる数少ない人物の一人。桜島をまるごと博物館と考え、現地で本物を見て楽しみながら学べるシステムの構築を目指している。エコツアーのコーディネート、学校教育のサポート、まちづくりなどを実践中。

＝講演の内容＝

■桜島ミュージアムセンターとは

桜島をまるごと博物館と考え、現地で本物を見て楽しみながら学べる観光地づくりに取り組む団体

4つの事業

- 1 桜島ビジターセンターの管理運営 入場者が5万人から10万人に
- 2 体験型観光の総合コーディネート
ツアーガイド・シーカヤック、修学旅行向け体験プログラム、農家民泊のコーディネート
- 3 桜島つばき油ブランドの商品化 6次産業化を目指す 椿油で地域を元気に
- 4 その他 まちづくり活動など 地元中学校の総合学習、情報発信、地域の魅力再発見イベントの実施

■ジオパークのテーマと独自性について（日本火山学会 2013年度秋季大会発表）

今ジオパークには独自性が求められる。独自性の高いテーマは、わかりやすい、興味を持ちやすい。しかし、高いほどジオサイトやストーリーが限定的になる。

■独自性は必要か？

- 1 テーマの独自性は幅を狭めるので良くない？
- 2 ジオパークのテーマは共通なので設定不要
- 3 独自性はあった方が良いが、他のジオパークとの違いにこだわらなくても良い？

■ジオガイドの養成

ガイドは誰のため必要か？ 重要なのはお客様に満足してもらう

良いガイドは？ お客様に満足してもらう。

誰が評価する？ お客様が評価する。JGC、JGNではない。

プロガイドは生活がかかっているので必死に自分で勉強する。ボランティアはできるときにできるだけ。この差は大きい。

ガイドの養成は、ガイドをしたことのない人がガイドを養成できる？

事務局で養成講座を企画するのは限界がある

■ガイドのサポート

誰に聞いたら良いかわからない→ 詳しい人に聞ける環境

ガイド・事務局と情報共有→ 定例会、他地域との交流

ガイド依頼が少ない→活躍の場を提供

ガイド運営にガイドが関わるべき→仕組みをつくり、当事者意識を高める

■ガイドのサポート

スキルアップは自分で、ストーリーは自分で探す

自分で面白いものを探す。ガイド同士の発表会を定例会で行う。(ジオゼミ)

■なぜストーリーが重要か？

- 1 興味もてる
- 2 記憶に残る
- 3 伝わりやすい
- 4 人に語りたくなる
- 5 行動を促しやすい
- 6 感情に訴える
- 7 話の流れで文脈を理解できる



既存のガイド養成講座を活用

インタープリタートレーニングセミナー、自然体験活動指導者(CONE)、自然観察指導員(NACS-J)、ネイチャーゲーム、リスクマネージャー養成講座(CONE)等

既存のガイドをジオに引き込む

得意分野とジオとのつながりを伝える→ジオはおもしろい！→もっと学びたい→ジオガイドに

まとめ

- ・お客様を中心に考える
- ・ターゲットが広ければ対応の幅も広がる
- ・ガイドの伝えるではなく満足させる
- ・ガイドはプロがやるべき？
- ・ガイドのサポートをする(ガイドの声を聞く)
- ・すべて自前で行わず、既存のモノを活用しては？



■開催地あいさつ

霧島ジオパーク推進連絡協議会

会長(霧島市長) 前田 終止

皆さんこんにちは。ようこそ私たちの霧島圏域にお越しいただきました、全国のジオパークネットワークの皆様方、市民を代表して心よりご歓迎申し上げたいと思います。



私は、霧島市長であると同時に協議会の会長でありますし、JGN の一員でありますので、原点から力をつくして微力ながら今まで走りつづけて参りました。皆様方の地域もそれぞれジオパーク活動に向かってがんばっておられる方ばかりだと思います。その中で、今日この会場に起こしの方々を中心に地域を支えておられる一人一人であろうなと思うところでございます。今日・明日新たな人との出会いとか、取り組みの新たな発見とか、大きな力を自分に与えてくれることでしょう。

今回、JGN の皆様方と私どもの地域がこのような研修会と一緒に開催できることは大変誇りに思います。今日の研修、明日のツアーと是非楽しんでください。

今回の研修が身のあるものになることをご祈念いたしまして歓迎のあいさつとさせていただきます。



13:00 全体協議

全体協議① 各地域事例発表（45分間）

テーマ

「各地域のガイド養成講座の現状と課題」

発表① 霧島ジオパーク 池田 圭介 氏



- 霧島ジオパークの現状と課題ということで話しをさせてもらう。
- 養成講座の目的 霧島で学び、霧島の魅力を伝える霧島のファンを育成する。霧島のことを良く知っているいろいろな方に伝えないといけないということで、まずファンを育成する。
- 霧島ジオパークのテーマ、自然の多様性とそれを育む火山活動、これを訪れる方々に正確に伝える。
- インタープリターとしての専門的な知識を取得して、お客様に安定したサービスを提供する。
- 以上三つの目的をもって実行している。
- 養成講座の運営体制は、本日お見えになっている5名の先生方をはじめ、特別講師としては東川先生、消防の方、気象予報士さんなどの方たちにご講演いただいている。
- 事務局は協議会事務局
- 霧島ジオガイドは平成21年から養成講座を開始して、現在88名のジオガイドが活動している。
- 24年度にはさらなるレベルアップを目的として、地球科学などの専門性を高めた中級講座を実施して88名中46名の中級ジオガイドが誕生している。
- ジオガイドの構成は第1期生が65名、7割を占めている。
- クラス別、初級中級ほぼ同数の割合。
- 地域では霧島ジオパーク構成自治体が7割を占める。他の地域の方もジオガイドとして活動している。
- 平均年齢が62歳。60代70代が多く6割を占める。
- 養成講座の内容 21年度初級は既存ガイドクラブの方にお願ひし、65名のガイドさんが誕生した。
- 23年度はガイド身経験者を対象に初級講座。23名が登録。
- 平成24年度は初級を対象に中級講座46名が中級ガイドとして登録。
- 本年度は未経験者対象に進めている。
- 21年度は座学と現地研修。現地経験者だけであった。23年度は現地経験がなかったのでトレーニングを組んだ。
- 24年度は21.23のガイドさんは地球科学に関する座学、現地は山麓の滝とかのジオサイトを巡るような講義を入れて、他地域のことも含めて現地講座をしている。
- 初級はジオガイドとして必要な知識技術の習得ということで、目標は中学生にわかるようなレベルを習得

したい。ジオパークの概要とか、ガイドの心得、持ち物、気象学、自然公園法、ルールなどを学びながら応急手当、読図、コンパスの使い方なども入れた。

- 中級はもっと地球科学の深い分野。ジオパーク関係者、地質関係者、高校生の質問に答えられるレベル。そういう知識を身につけて、客のニーズにこたえられる満足度の高いガイドを養成したい。
- 21年度は新燃岳のコースも入っている。
- 23年度は、AED の使い方なども入れた。
- 24年度は山麓部分の現地とか、地球科学の深い分野を教えていただき、隣の桜島にいかせていただいた。霧島で学んだことは、他の地域でもわかるような知識を身につける。
- 中級は、霧島ジオガイドの中で自身と誇りをもってさらに霧島の魅力を伝えていく地域のリーダーを育成していくという考えでやっている。
- 中級認定制度は、講座を受けて認定試験、80 点以上で合格。霧島ジオパークネットワークという中級ガイドで組織し、ここで活動していきたいということで設立。
- 認定証、カード、ワッペンを渡して、プライドをもって案内していただく。
- 今年度の初級講座は 23 年度に不足していた内容とかを織り込みながらガイドの持ち物とか細かいところから始めている。
- 養成講座の今後の課題。募集時に真剣にガイドになりたい人が集まる募集のしかたを考える必要がある。生涯学習として受けている人もいる。ガイドをやっていく人を募集していきたい。山岳がメインなので文化を繋いだ講座をやってきたい。霧島はエリアが広いので行き届かないので強化していきたい。
- 人に伝える技術、インタープリテーション能力を強化。押し付けのガイドではなく客の興味をひきだして楽しめるガイドを養成する。
- 他地域との交流もしたい。
- ジオガイドは 1 日にしてならず。じっくりと腰をすえてやりたい。



発表② 島原半島ジオパーク 大野 希一 氏

島原半島 GP は最初に認定されだが、ガイドが育っていると思われがちだがそうではない。

ガイド養成で大失敗している。くりかえさないようにしてほしいということで話をする。

- ガイド養成講座の開催。平成 20 年度から。初級・中級のレベル。

初級は主に座学。専門員が案内するジオツアーに



参加して、ジオパークの概念やジオパーク的な地域の見方を体験する。

中級は主に野外。ガイドがコーディネートしながらジオサイトのストーリー作りや、参加者による参加者間の案内をやって、実際に現地でスキルアップしていくやり方。

- 初級中級同じ年度にやると大変。隔年でやっていく予定。
- 2012 末に 27 名のジオガイド認定。初級・中級の修了書をもって、認定試験に合格し、ヒアリングでやる気のある人を任命している。
- 最初は地球科学基礎知識に加えて、植物・文化・災害などがテーマ。
- 9 月から始めて半年程度。座学は 1 時間半から 2 時間程度。巡検は丸 1 日使う。
- 翌年、中級講座。現地が主体。もちろん現地で歴史的な見どころも見る。初級の人に中級の人がガイドを提供する。手間がかかって破綻した。自然からガイド同士で。
- 法令の勉強も行う。自然公園法、国立公園制度の勉強をする。危険動物、危険植物についてリスクマネジメント、救急救命講座など。
- 中級のガイドが、半島内の事業所や市役所の職員とか、希望する人たちに対して自分たちの見どころを紹介する。半島全体の網羅的な説明は難しいので、自分の得意なジオサイトを選んで説明し、その後その結果をフィードバックするという仕組みを作った。
- プロガイドがガイドテクニック、リスクマネジメントの話をし、会が終わったら宿題として自分の興味があるジオサイトのストーリーをつくってもらう。そして実際にバスツアーの中で実際の現場で説明するというやり方をしてきていた。
- ちゃんとやっていそうに見えるが、いくつか問題がある。

失敗 1

- 最初どういうガイド養成をしたらいかがわからなかった。結局最初の頃ジオパークの仕組みがよくわかっていなかった。なぜガイド養成が必要なのかを事務局がわかっていなかった。

認識が甘くスタートした。初期はジオパークを広めなければならない。興味のある人みな来てくださいということで、ガイドになる気のない人まで養成講座に来てしまった。ガイド養成講座の内容がバラバラになったり、地質地形以外の歴史までなぜわからないといけないか？とか、あるいは歴史の中で地質地質がどうかかわっているのかまで講師が説明する必要がある。そういうことがよくわからない状態で実施されていると、歴史は歴史、地質は地質、観光は観光という縦割りの知識がガイドさんに入ってしまう。それを繋げていくことが醸成されていなかった。

- 受講後、ガイドはやらないという人が出てきた。

失敗 2

- 企画倒れになったこと。ジオガイドになったら最終的にこの組織に所属して、そこから活躍してくださいねというビジョンをしめせなかった。

ドロナワ式にやってしまった。ガイドになったら

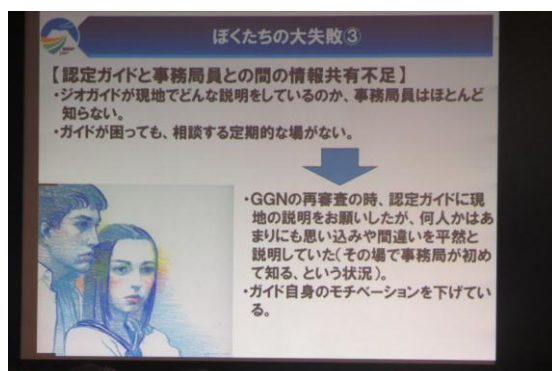
将来どうなっていくのかというイメージがつかめない。さらに受講者がガイドになったらどういうメリットがあるか、どういう収入があるかが決まっていなかった。示さなかったのではな



くて示せなかった。ガイドのモチベーションの維持にすごく支障があった。もともとガイドで活躍していた団体もあり、その人たちをターゲットにジオパークへの協力を依頼してすすめればよかったのに、ガイド経験の全くない人まで巻き込んでゼロから始まった。出来るわけがない。養成講座の修了証を得た人からクレームが来たり、ガイド養成をしたことがない人がプログラムを作って、ガイド経験のない人にガイド養成をするということが相当無理がある。

失敗 3

- 今でも続いている。ガイドと事務局との情報共有不足。ジオガイドが現場でどのような説明をしているか事務局が知らない。これは問題。ガイドが説明するときに困ったことがあっても、相談する場、定期的な会議がない、具体的に決まらない。
- 世界再認定審査が7月にあったが、そのときに認定ガイドに現地説明をお願いした。打ち合わせはしたが、現地で全然違う話をした。思い込みで話をされて、皆パニック状態。情報共有が不足し、信頼関係ができていない。
- こういうこと自体が大変な悲劇を招く。
- 事務局専門員がガイドの活躍する場を奪っている。観光協会はガイドに依頼するが、客の期待が高い場合、ガイド1人ではできない。ガイドではなく専門員に相談が来るような状態。客は満足するが、ガイド依頼のルートが途切れてしまう。
- さらに客が直接専門員に依頼するようになってしまう。最悪の事態。これが島原では出てきていてまずい。
- ガイドさんにガイドしてもらわなければならない。ガイドは現地で体験して経験を積まなければならないが、事務局がその機会を奪ってしまっている。
- ガイド養成の中で最初に伝えるべきは、ジオガイドになりたい人、なった人は実際どこで活躍するのかというビジョンを示してやる。こちらのリクエストをきいてもらうためには事務局とガイドさんの情報共有がないとできない。
- 講習会の知識的縦割りを解消するために、講習会の必然性をしっかり説明する必要がある。ガイドの意識も向上しない。
- 一回認定してしまうとプレッシャーもある。健康上の理由などでやめたい人もいるし、役割を軽減する工夫も必要。客のクレームを受けるガイドも指導する必要があるが、行政はそれができない。



発表③ 秩父ジオパーク 宮城 敏 氏

- 秩父流のガイドの育て方、ともに学ぶという形で発表する。
- 従来の取り組みを生かして、風土と大地のかかわりをともに学んでいこうというコンセプト。
- ジオガイド認定をされたガイドはいない。
- 1970 年ごろから変化。それまでは地域の資源を経済発展に使っていこうということで経済発展の素材としてあったが、癒しに使えるのではないかということで、秩父では古くからガイドがあった。
- 既存のガイドがかなり多かった。秩父和同開珎と銅産出を案内するガイド、秩父札所 34 箇所のガイドとかが活躍していた。推進協議会の中にも多くのガイドクラブがある。
- 奥秩父の地質、風景、鉱物、自然などをガイドする仕組みがあった。
- ガイドの連携、ネットワークをつくりガイドのスキルアップをする組織も出来ている。
- 協議会ではこれらの団体への講演とか現地学習をすることによって「ジオ味をつける」という考えでやっている。
- その前段で秩父学という郷土学の認定講座がある。歴史文化編、自然編のテキスト。ジオパークも要素を入れてある。初級検定、上級検定があって、自分の箔をつける意味でもガイドさんたちも学びをしている。
- 自分の知識をつけたいだけの人もあるが、こういう知識をもった人に現地にはいていて、ジオの味付けをしてもらって活躍していただくということ。
- 案内書も作ったりしている。
- 秩父の観光・おもてなしは既存ガイドがやっていたものにジオ味をつけるということ。札所案内も秩父札所 4 番の石仏は地元では凝灰岩を使っているが、岩戸の沢石というが、秩父での産所などの話もする。札所 32 番のタフォニーも説明している。札所 19 番ではポットホールが見られる。地層の不整合などが見られたりということで、一味違った札所巡りという案内のしかたをしている。
- ジオツアーも関連する団体が歴史ツアーにもジオ味をつけて工夫して行っている。
- 宮沢賢治が秩父を旅しており、たずねたところをジオツアーのモデルコースにしたり、今ま



であったことを結びつけながらジオツーリズムを組み立てている。

- 東京から78分で秩父につく。西部秩父駅前にジオストップ、ジオツアーここから始まるころがあった。大きな木があってその前に秩父農工高校の敷地であった記念碑の台座の石が火山岩と石灰岩がつかってある。ウミユリの化石も見えてジオツアーのスタートの場所にそのようなものがあるということに最近わかった。
- 子供たち、将来ジオガイドになっていただきたいというジオキッズ養成にも取り組んでいる。現地学習会、講演会、展示会などもやっている。夏休みにも児童生徒の研究として肌で感じたジオパークとかの発表も出てきている。このようなこともやりながら未来のガイドも養成できたらいいなと思っているところです。
- 具体的には、郷土学の中の秩父学セミナーがあるが、その中の専門講座としてジオパーク秩父探究コースが三年前から始まっている。一年間学習成果を発表し、ガイドとして活躍しているが、具体的には現地視察、座学、研究発表。自分達でテーマをきめてガイド養成ではなく、自分達で勉強してガイドとして活躍するという取り組みもある。
- 一般教養講座では、大学レベル級の専門家が自然、文化、歴史について60名くらいの受講者に教える。この一般教養講座を学んだ人が自分達で探究講座で学ぶという流れ。
- 最近になって放送大学が郷土学から養成講座も始まっている。推進協議会で雇用している推進員が講師になって地域リーダー育成支援と、地域貢献プランという形で、秩父ジオパークボランティアガイド養成講座を今年は2日間泊り込みで行う予定。
- 案内人としては、例えば札所も一味違った案内をしたり、認定審査の現地調査でも話をいただいたり、秩父学専門コースの卒業生、織物のコレクターの方なども案内している。JGN認定以降、このようなひとたちが活躍している。
- 秩父はこのような形で動いている。色々なジオガイド養成の課題、解決方法なども学んでいきたい。
- それぞれの団体の有償・無償・安全管理は？
- 料金は秩父案内人クラブでは、コースでまちまち。多様な金額設定されている。安全管理・保険はそれぞれの団体の今までの保険の適用にゆだねており、システム化されていない。
- 既存ガイドとの関係は？
- いままでの取り組みを否定するものではないというスタンスをとっている。客をってしまうという考えにならないよう、今までの活動に味付けをするという考えでやっている。反発・抵抗はいまのところはない。



全体協議② アンケート質疑・回答

座 長 霧島ジオパーク 坂之上 浩幸

内 容

事前にとったアンケートの「その他の質疑」に23地域から質問があった。その中から数地域ピックアップして、質問と回答を紹介する。それに対し、会場から意見があれば発表してもらおう。



ガイドさんに求められる知識、スキルは各地域ごとに特徴があり、事前調査表などでもそれぞれ工夫されて養成講座を実施されていることがうかがえた。質問・課題では共通するものも多く、情報や課題の共有ができたと考える。

※ 今回の研修会の目的の一つであった事例集として、事前調査表、課題質問回答は別途各地域に送付するので、ガイド養成講座やガイド運営の参考にさせていただければ幸いである。また今後も各地域相互に情報交換をしていただきたい。



15:00 グループ協議

進行 霧島ジオパーク 窪田 宗摩



～お客様を安全にガイドするためのリスクマネジメントとガイド養成～

1 目的

各地域の「ガイド中のリスクとその対策（マネジメント）」を取りまとめて発表することで、お客様を安全にガイドするために必要と考えられるリスクマネジメントの情報共有を図り、ガイド養成講座の参考としてもらう。

2 手法

- (1) 各地域のリスクを発表し、リスクに関連した地域の選択（分類）を行う。
- (2) 分類に応じた地域性とその対策等について協議し、まとめる。
- (3) 全地域の共通事項としてのリスクとその対策等を協議しまとめる。
- (4) 班毎に発表する。

3 内容 (120分)

(1) 手順等説明



(2) 自己紹介及び役割分担



(3) 各地域のリスク発表・協議



(4) 地域性の選択（分類）



(5) リスク対応発表・協議



(6) 資料作成



(7) 全体発表



ガイド中におけるリスクは、安全面だけではなく、資源保全・環境保全の面もあるが、今回のグループ協議では主に「安全面でのリスクマネジメント」について協議を行った。


各班の班員が属する地域のリスクを、【火山】【海・海岸・川】【池・沼・湿地】【山岳・崖地】【洞窟・地下】【森林】【市街地】【島】【共通】の中から分類し、それぞれのリスクに対する対応策を協議し、用紙にまとめて班毎に発表した。

ガイド養成講座は、講座そのものが目的ではなく、あくまでもお客様の満足度(CS)向上が最終的な目的であり、かつ、ガイド中のリスクも各地で異なるのが現状であるため、今回行ったグループ協議結果を持ち帰り、各地でガイドさん等とリスクの洗い出しの段階から協議を行ってそれぞれのガイド養成講座等に反映していく必要がある。

第3回 JGN 全国研修会 グループ協議

お客様を安全にガイドするための
リスクマネジメントとガイド養成

題名



班
議
書
発
表
者

名長記者
(まねちゃん)
(なかげ)
(ねげんさん)

班
(まねちゃん)
(なかげ)
(ねげんさん)


ニックネーム
を記入して!

分類	リスク	対応
火山	噴火 噴石 火山ガス	避難場所 事前準備 天候 危険地 把握 避難 方法 危険地 把握
海岸 川	津波、潮の満ち引き 増水、高波、高潮 落水、鉄砲水	危険地 把握 避難 場所 事前準備 天候 危険地 把握
山 崖地	土砂崩れ、天候気象 有害動植物、落石、 道の舗装、凍結	危険地 把握 避難 場所 事前準備 天候 危険地 把握
共通	地震、人的ミス、体調不良 設備の老朽化、携帯圏外 強風	事前の 情報の集 事前 準備 当日の 対応方法 避難 行動

第3回 JGN 全国研修会 グループ協議

お客様を安全にガイドするための
リスクマネジメントとガイド養成

題名



班
議
書
発
表
者

名長記者
(中津川のマスくん)
(アサヒさん)
(珠(タマ)ちゃん)

班
(中津川のマスくん)
(アサヒさん)
(珠(タマ)ちゃん)

ニックネーム
を記入して!

分類	リスク	対応
火山	ガス 噴火 地熱のやけど	事前 情報収集・下見
山	天気の急変	避難経路の確認 保険加入、コース変更
海岸	岩の打ちめ、着落 津波	ツアー事前アセス(アセス等) (中止の判断) 表備
共通	地震、落石、急い電巻、落石 交通事故、転倒、危険箇所、下化、道迷い 体調不良、脱水、熱中症、凍傷、 聴覚障害、耳鳴り、耳痛、耳閉感	緊急用品(コース季節) 笛、ホイistle、ラッコ

第3回 JGN 全国研修会 グループ協議

お客様を安全にガイドするための
リスクマネジメントとガイド養成



ニッケネーム
を記入して!

名長記
班議書
発表者

(うがちゃん)
(シオランナー)
(カモシカさん)

班
(4)

分類	リスク	対応
自然災害	① 火山活動 ② 雪 ③ 水の事故 ④ 気象 ⑤ 落石	① 気象チェック ⑥ 危険予知トレーニング ② 事前の下見・定期的な点検 ③ 立ち入り規制・看板 ⑦ 応急処置 ④ ハザードマップ ⑤ 装備 救急救命
地形	① 登山での事故 ② 石灰岩地形での事故	① 登山道整備 ② 監視カメラ・水位計 ③ 装備 ④ 啓発 ⑤ 応急処置 ⑥ 健康・体調チェック 救急救命
人間の活動	① 移動中の事故 ② 体験活動中の事故 ③ 通信エリア外での事故 ④ 施設の老朽化	① 事前の下見 ⑤ 通信エリア把握 ② 道路状況 ⑥ 立ち入り規制 ③ 注意喚起 ⑦ 予算確保 ④ 無線機の配備
共通	① 毒のある生物 ② 危険な生物	① 装備 ② 体対処法・予防 回避 駆除 ③ 注意喚起 看板 ④ 知識習得

第3回 JGN 全国研修会 グループ協議

お客様を安全にガイドするための
リスクマネジメントとガイド養成



ニッケネーム
を記入して!

名長記
班議書
発表者

(バンダイサン)
(ハコネヤマ)
(アソサン・ダバクバツ)

班
(3)

分類	リスク	対応
火山	火山ガス・土石流・濃霧 降灰・降灰によるスリップ 噴石・ガケ崩れ・地すべり 落石・熊・ハブ・ハチ・なし	監視カメラ・水位計・ヘルメット着用 ハザードマップ 立ち入り規制 風向きチェック 避難場所のチェック 注意喚起(長袖着用)
火以外 の山 洞窟・地下	洪水(水が吸い込み切れない) 洞窟内でのケガ(細道の緊急 出口の故障) 地下水位の上昇	立ち入り規制 消毒剤の携行 電池携帯 リザーブ中止
海・海岸 川	津波・海に水没 転覆・溺水	ハザードマップ 浮輪設置 ロープ携行 ライフジャケットの着用
共通	熱中症・スリップ・突然の急降・膝痛 物が届かない・行方不明・交通事故 遅延・転倒・緊急時に連絡手段はない 台風・自然の雨・クレーン 車・船・雷	注意喚起 事前準備 マニエール作成 緊急時体制の確立

第3回 JGN 全国研修会 グループ協議

お客様を安全にガイドするための
リスクマネジメントとガイド養成

班名 (5) 斑
講師 (のんべさん) ニックネーム
書 (石ちゃん) を記入して!
発 (いわねさん)



分類	リスク	対応
海	落水溺れる(人的要因) 潜水病(人的要因) 潮流潮流(自然要因)	ライフジャケットの着用 ライフセーバーの訓練 天気予報のチェック
山 崖地	地が(崩れ) 落石(自然要因) 滑落(自然要因) 転倒(人的要因)	ガードロープやワイプ等の設置 注意看板の設置 注意喚起
火山	噴火・噴石・火山灰 熱気(自然要因)	立入り規制 ヘルメット・ガスマスク等の用意
共通	天候・危険動植物 (自然要因) ツア参加者の管理 (人的要因)	<div style="display: flex; justify-content: space-around; font-size: small;"> 下見、大朝記、危険動植物の管理、ツア参加者の管理 救助発生時の連絡、救助要請、救助要請の出し方、救助要請の受け方、救助要請の受け方 </div>

第3回 JGN 全国研修会 グループ協議

お客様を安全にガイドするための
リスクマネジメントとガイド養成

班名 (6) 斑
講師 (みやちゃん) ニックネーム
書 (いちー) を記入して!
発 (とよてつ)



分類	リスク	対応
海・川 (水に 関するもの)	落ちる、すべる 流される 津波	(直前)事前調査 安全対策(ロープ、警告等) 安全装備、ヘルメットの着用 その地域における危険な生物を 無茶させない 知っておく
山岳地 (山に 関するもの)	崩れる 車ぶが 生き物	安全装備、ヘルメットの着用 その地域における危険な生物を 無茶させない 知っておく
人の 暮らしに 関するもの	交通事故 健康チエック	声かけ、無線配備(通信) 健康チエック
共通	体調管理 気象	安全講習、アースアイド 連絡体制の確保・保険 時間の管理

研修会2日目 11月22日(金)

池めぐりコース		バス山麓コース	
8:00	霧島市役所出発 ※池めぐりは大型バス、山麓コースは中型バスへ乗車		
9:00	えびのエコミュージアムセンター到着		
10:00	ジオガイド ・奥村 ・樋口 ・原口 各班に分かれトレッキング出発 ↓ えびの高原展望台 ↓ 二湖パノラマ展望所 ↓ 六観音御池 昼食 ↓ 不動池 ↓ 硫黄山 ↓ えびのエコミュージアムセンター	10:00 10:05 10:30 12:00 13:10 13:45 14:05 14:30	バスツアー出発 ↓ 新燃岳展望所(車中) ↓ 高千穂河原 ↓ 高千穂牧場 昼食 ↓ 霧島神宮 ↓ 霧島観光案内所 ↓ 御鉢溶岩末端 神話の里公園 ↓ 丸尾滝
15:30	鹿兒島空港		
16:00	↓ JR 国分駅		
16:05	↓ 霧島市役所 解散		



えびのエコミュージアムセンター



霧島ジオパークの「拠点施設」である「えびのエコミュージアムセンター」は、平成25年度にリニューアルした。霧島錦江湾国立公園地域の自然や地形、地質などわかりやすく紹介する施設である。

池めぐりコース



班に分かれ準備体操



ガイドによる解説



展望台から韓国岳を望む



二湖パノラマ展望台より六観音御池・甕岳を望む

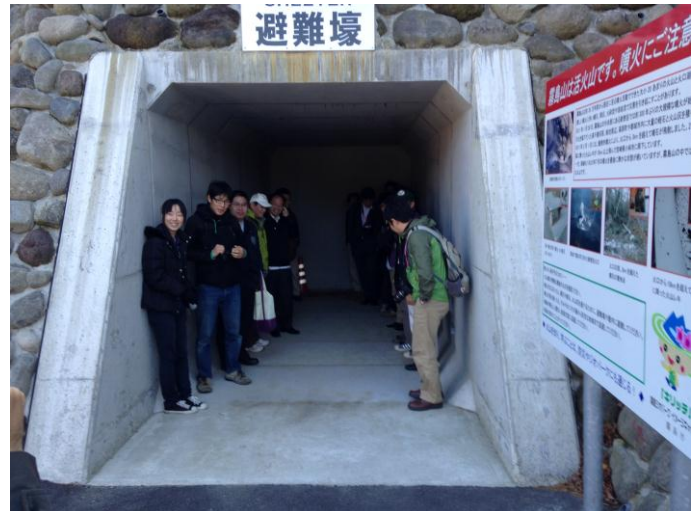


六観音御池にて

バス山麓コース



霧島神宮古宮址



高千穂河原に設置されている避難壕



霧島神宮



高千穂牧場より霧島山を望む



霧島神宮にて



第3回JGN研修会参加者一覧

No.	都道府県名	所属	氏名
1	北海道	洞爺湖有珠山	か が や 加賀谷 にれ
2	新潟県	糸魚川	なかむら まさき 中村 真義
3	新潟県	糸魚川	い い とおる 井伊 徹
4	長野県	南アルプス	ふじい りえこ 藤井 利衣子
5	兵庫県	山陰海岸	はせがわ えいじ 長谷川 栄治
6	兵庫県	山陰海岸	あさまち たかし 麻町 卓司
7	高知県	室戸	ふるさわ かな 古澤 加奈
8	長崎県	島原半島	おおの まれかず 大野 希一
9	長崎県	島原半島	すぎもと しんいち 杉本 伸一
10	福井県	恐竜渓谷ふくい勝山	はたなか たけのり 畑中 健徳
11	島根県	隠岐	のべ かずひろ 野辺 一寛
12	島根県	隠岐	さいとう まさゆき 斎藤 正幸
13	熊本県	阿蘇	やまもと としお 山本 俊夫
14	熊本県	阿蘇	なかしま よしひこ 中島 元比古
15	熊本県	阿蘇	いしまつ あきのぶ 石松 昭信
16	熊本県	天草御所浦	うがい ひろあき 鵜飼 宏明
17	熊本県	天草御所浦	つるおか せいや 鶴岡 誠也
18	北海道	白滝	くまがい まこと 熊谷 誠
19	秋田県	男鹿半島・大潟	たけうち ひろかず 竹内 弘和
20	秋田県	男鹿半島・大潟	うすい のりゆき 薄井 伯征
21	福島県	磐梯山	さとう ひろし 佐藤 公
22	福島県	磐梯山	はすおか まこと 蓮岡 真
23	茨城県	茨城県北	さいとう かつお 斎藤 勝男
24	埼玉県	秩父	みやぎ さとし 宮城 敏
25	埼玉県	秩父	えいこし のぶき 永越 信樹
26	石川県	白山手取川	おいかわ あつみ 及川 敦美
27	石川県	白山手取川	ひろかわ きよみ 廣川 清美
28	秋田県	ゆざわ	こまつ まさし 小松 雅
29	秋田県	八峰白神	かみがき やすひこ 神垣 恭彦
30	秋田県	八峰白神	おがわら たかひこ 小河原 孝彦
31	千葉県	銚子	いわもと なおや 岩本 直哉

第3回JGN研修会参加者一覧

No.	都道府県名	所属	氏名
32	千葉県	銚子	やまだ まさひと 山田 雅仁
33	神奈川県	箱根	ほしの ゆうこ 星野 裕子
34	神奈川県	箱根	あおやま ともふみ 青山 朋史
35	静岡県	伊豆半島	いしい ちはる 石井 千春
36	静岡県	伊豆半島	たばた みなお 田畑 みなお
37	静岡県	伊豆半島	たばた あさえ 田畑 朝恵
38	静岡県	伊豆半島	かなざわ けんじ 金沢 謙次
39	北海道	三笠	にい ただひろ 新居 忠浩
40	北海道	三笠	くりはら けんいち 栗原 憲一
41	青森・岩手・宮城県	三陸	うえの あゆみ 植野 歩未
42	新潟県	佐渡	いちばし やよい 市橋 弥生
43	新潟県	佐渡	こだま いきお 児玉 功
44	愛媛県	四国西予	げん たくや 源 琢哉
45	愛媛県	四国西予	やました もとき 山下 元紀
46	愛媛県	四国西予	まきた たかのり 時田 尚典
47	大分県	おおいた姫島	すが たけあき 須賀 猛明
48	大分県	おおいた 豊後大野	とよた てつし 豊田 徹士
49	鹿児島県	桜島・錦江湾	おおみね しげのり 大嶺 繁徳
50	鹿児島県	桜島・錦江湾	いでもり こういちろう 出森 浩一郎
51	鹿児島県	桜島・錦江湾	ひらみね ひろと 平嶺 浩人
52	北海道	とかち鹿追	なるみ なおゆき 鳴海 直行
53	宮城県	栗駒山麓	だざい さとし 太宰 智志
54	宮城県	栗駒山麓	みうら ごう 三浦 剛
55	宮城県	栗駒山麓	さとう みさお 佐藤 操
56	宮城県	蔵王	かとう かつひこ 加藤 勝彦
57	宮城県	蔵王	さとう よしゆき 佐藤 良行
58	山口県	美祢	おばら ほくと 小原 北土
59	山口県	美祢	やまがた ともこ 山縣 智子
60	鹿児島県	三島村	おおいわ ね ひさし 大岩根 尚
61	東京都	JGN事務局	さいとう せいいち 斎藤 清一
62	茨城県	JGC事務局	わたなべ まひと 渡辺 真人

第3回JGN研修会参加者一覧

No.	都道府県名	所属	氏名
63	東京都	北海道地図(株)	すとう としみち 周藤 利通
64	東京都	北海道地図(株)	こしいし ひであき 輿石 英明
65	NPO法人かごしま探検の会代表理事		ひがしかわ りゅうたろう 東川 隆太郎
66	NPO法人桜島ミュージアム理事長		ふくしま だいすけ 福島 大輔

霧島ジオパーク

1	ガイド養成講座アドバイザー	ふるその としお 古園 俊男
2	ガイド養成講座アドバイザー	ひぐち のぶよし 樋口 信義
3	ガイド養成講座アドバイザー	おくむら けんいちろう 奥村 健一郎
4	ガイド養成講座アドバイザー	しらいけ はかる 白池 図
5	ガイドネットワーク代表	はらぐち けんたろう 原口 憲太郎
6	中級ガイド	わたなべ しゆんすけ 渡邊 俊輔
7	中級ガイド	こぞの しげお 小園 重雄
8	中級ガイド	たかはし のぶしげ 高橋 信誠
9	中級ガイド	くち まち あやこ 口ノ町 綾子
10	中級ガイド	うすざき のき 臼崎 のき
11	中級ガイド	はらだ のりこ 原田 徳子
12	中級ガイド	やなぎた ようこ 柳田 蓉子
13	鹿児島県地域政策課	くぼ かずま 久保 一真
14	宮崎県中山間・地域政策課	にしはら まなぶ 西原 字
15	都城市商業観光課	おおさき なおき 大崎 直樹
16	小林市企画政策課	ゆきわき だいすけ 柚木脇 大輔
17	えびの市企画課	さかぐち ゆうき 坂口 優紀
18	曽於市企画課	かみじゆつこく けんご 上拾石 賢吾
19	霧島市商工観光部長	まんとく しげき 萬徳 茂樹
20	霧島市霧島ジオパーク推進課長	さかのうえ ひろゆき 坂之上 浩幸
21	霧島市霧島ジオパーク推進課	なかむら みつひこ 中村 光彦
22	霧島市霧島ジオパーク推進課	いけだ けいすけ 池田 圭介
23	霧島市霧島ジオパーク推進課	くぼた そうま 窪田 宗摩
24	霧島市霧島ジオパーク推進課	いしかわ とおる 石川 徹



Kirishima Geopark
霧島ジオパーク